

第2510地区 第11グループ



2005~2006

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2005~06年度
国際ロータリーのテーマ

超我の奉仕



2005~06年度
国際ロータリー会長

カール・ヴィルヘルム・
ステンハマー

増田 定雄 会長 テーマ 温故知新 — ロータリーに愛を —



11月9日卓話 種田 貴司 氏

《第2036回例会》 第19号 11月16日(水)

本日のプログラム

卓話「クリスマスファンタジーについて」

函館青年会議所 理事長 中山 一郎 氏

★会 長 増 田 定 雄 ★幹 事 増 山 正

例会場：函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 二子ビル4F TEL23-3870

こうしたことから、海を基盤に発展してきた地域同士の合併を機に、市民が地域の「海」やそこに生息する生物、さらには水産・海洋に関する学術・研究の成果や産業について体系的に学ぶことができ、特に、次代を担う子どもたちが、家族とともに楽しみながら、魚や海藻などの生物とふれあい、自然環境の大切さや生態系のしくみを理解することによって、豊かな人間性と創造性を涵養できる地域社会を築き、「知の世紀」と言われる21世紀に有為な人材を育成していくことが強く求められています。

(会報担当者：崎野 浩志 委員)

医療法人社団 藤 紀 会	
齊 藤	医 院
内 科 消化器科	
院 長 齊 藤 紀 一	
函館市万代町 1-13 (ダイエー万代店横)	
TEL (0138) 45-1118 (代)	

(広告掲載：齊藤 紀一 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

◎ 10月26日出席報告

会 員	33名	出席率対象会員	33名
		出席規定免除会員	0名
		出席率規定免除会員	0名
当日出席	16名	当日欠席	17名
他クラブ出席	10名	出席合計	26名
出席率	78.79%		

・ テレフォンサービス(例会移動案内)電話 26 - 3170 番

次回・11月23日 プログラム	祝日休会 11月30日 卓話「生活習慣病の予防」 <small>函館市役所 保健所健康増進課 主査 加藤 美子 氏</small>
----------------------------	---

11月9日の記録

◎司 会 増田 定雄 会長

◎齊 唱 奉仕の理想、四つのテスト

◎ゲ ス ト 函館市企画部企画調整課 種田 貴司 氏

◎会長報告 増田 定雄 会長

○2005～2006年度の年次総会を12月7日に行います。

○理事会報告

- ①ガバナー月信の購読料について
- ②会員の健康診断について
- ③クリスマス家族会について
- ④12月7日年次総会について
- ⑤ソロプチミストクリスマスパーティについて
- ⑥地区財団学友会について

◎委員会報告

●職業奉仕委員会 齊藤 紀一 委員

11月16日は健康診断です。例会場で血液、血圧、採尿検査をします。

◎幹事報告 増山 正 幹事

- 国際ロータリー第2510地区 丸山ガバナーエレクト事務所開設のご案内が来ております。
- 函館R.C.17日、函館五稜郭R.C.18日、25日はそれぞれ移動例会に変更です。
- ロータリー情報マニュアル 1部500円です。希望の方は幹事まで。

◎親睦活動委員会 青田 誠司 委員

ニコニコBOX投入報告

増田 会長……ロータリーに愛を。

増山 幹事……先週休んだおわびです。山下さん代行ありがとう。

森 会員……ロータリーに愛を。

中野 会員……26年ぶりに伊豆・箱根へ行って来ました。

松見 会員……BOXに協力。

小笠原会員……ロータリーに愛を。

◎卓話 「海の生態科学館の整備について」 函館市企画部企画調整課 種田 貴司 氏

1. 海の生態科学館の必要性

〈事業の背景〉

本市は、日本海と太平洋をつなぐ津軽海峡に位置する天然の良港・函館港を有し、古くは室町時代から、北海道の玄関口として交易が盛んに行われ、北前船交易による経済の繁栄の時代を経て、安政6(1859)年には、横浜・長崎とともに、我が国最初の国際貿易港として開港されました。

開港後には、各国の領事をはじめ、宣教師や商人などが数多く訪れ、いち早く西欧諸国の異文化にふれながら発展し、その影響を色濃く受けた西部地区の異国情緒ある街並みは、今日の貴重な観光資源となっています。

大正から昭和の時代においても、北海道開発や商業・貿易の拠点、北洋漁業の基地として、「港」を中心として着実に成長を遂げてきました。

また、道南周辺には、対馬海流、リマン海流、千島海流の3つの異なる海流が流れ込み、その「豊かな海」は、今日まで多種多様な水産生物を育てています。

こうした「海」との関わりを背景に、本市では、水族館を求める市民要望が長年にわたって強くあり、これまでに幾度かの計画が検討されてきました。建設費の負担や立地場所あるいは採算性などの課題を抱え、観光的な要素の強い水族館を整備することについてはいずれも実現に至りませんでした。本市には、家族連れで楽しめる施設や科学的な学習意欲を満たす施設が、道内主要都市などに比べ不足していることから、その後は、次代を担う子どもたちが有意義な余暇を過ごすことができる社会教育的な施設整備に向けて検討を続けてきました。

こうしたなかで、平成16年12月に戸井町、恵山町、楯法華村、南茅部町と合併し、渡島半島の南東部に市域が拡大し、津軽海峡から太平洋にかけての海岸線は120kmにおよび、函館港をはじめ24の港湾・漁港を有することになりました。

合併した4地域は、こんぶをはじめ、いかやまぐろ、たら、たこ、ほっけなど、豊富な水産資源に恵まれ、ともに漁業を基幹産業としていることから、新たな函館市は、北海道でも有数の漁業生産地になりました。

また、本市には、北海道大学大学院水産科学研究科・水産学部や公立はこだて未来大学、道立工業技術センターや道立函館水産試験場などの学術・研究機関が数多く立地するとともに、水産食料品製造業や造船業、漁労機械製造業など水産・海洋に関連する独特な産業が集積しており、現在、こうした本市の有する特性を生かしながら、マリンサイエンスの研究分野で世界をリードする水産・海洋に関する国際的な学術・研究拠点都市の形成をめざし、「函館国際水産・海洋都市構想」を推進しています。

このように、本市は、性質の異なる海に囲まれ、海洋資源が豊富で、天然の良港にも恵まれるなど、地理的・自然的な条件に優れ、歴史的には「海」が人々の日々の暮らしのなかにとけこみ、地域経済の発展に大きな役割を果たしてきました。「海」は、将来的にも、未利用資源の活用や食糧生産、さらには地球環境や生命科学など様々な分野で無限の可能性を有しています。

しかし、市民が、新しい函館市を取り巻く「海」から、生命の大切さや生物間の相互作用などを学ぶとともに、学術・研究の成果や産業について体系的に学び、体感できる機会が少なく、また、これまでそれぞれの自治体が独自に展開してきた事業を効率的に体系化し、都市化が進んでいる地域と漁業が主体の地域との交流による一体感の醸成を図ることが課題となっています。